

令和4年度(2022)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第一中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1年生の国語は、多くの問題で市及び全国平均正答率を大きく上回っている。
○2年生の数学の記述式問題において、昨年度(1年時)は市平均正答率を下回っていたが、今年度は市平均正答率と同程度である。
○2年生の英語の記述式問題は、一つを除いて市及び全国平均正答率を大きく上回っている。
○3年生の国語及び数学は、多くの問題で県及び全国平均正答率を大きく上回っている。
●2年生の数学及び英語において、無解答率が3割を超える問題もある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○すべての領域で全国平均正答率を上回っている。 ●領域にかかわらず、記述式問題において、無解答率が高いことに課題がある。	□漢字の書き取りテスト等を引き続き行い、基礎・基本の定着を図る。 □授業において、内容及び字数などの条件を設けた書く活動を増やしていく。
	2年	○すべての領域で全国平均正答率を上回っている。 ●他の問題の平均正答率に比べて、話し合いの内容を聞き取る問題や文章の構成を捉えて内容を読み取る問題の平均正答率が低い。	□必要に応じてメモ取ることを促し、正確に聞き取ることを意識した学習活動を設定する。 □構成や展開を捉えたうえで文章の内容を正確に読み取る問題演習を行う。
	3年	○多くの問題で、県及び全国平均正答率を上回っている。 ○知識及び技能については、全国をやや上回っている。 ●文章を正確に読み取ったり、根拠を明確にしたりすることにやや課題がある。	□基礎・基本の定着を大切にした取組を継続する。 □根拠を意識した問いかけを増やしたり、根拠を明確にした説明(発言・文章など)につながる活動をしていく。
数学	1年	○概ね全国平均正答率を上回っている。すべての領域で全国平均を上回っている。 ●記述式問題の平均正答率は全国平均を大きく上回っているが、他の問題の平均正答率と比べて低く、課題がある。	□授業の中で、生徒が自分の考えをまとめ説明する場面を増やす。またその際、正しい数学用語を用いて説明できるように指導する。
	2年	○「数と式」、「図形」は、全国平均正答率と同程度で、問題によっては大きく上回っている。 ●「関数」は、全国平均正答率をやや下回っている。 ●「データの活用」は、全国平均正答率と同程度だが、問題によっては大きく下回るものもあり、課題がある。	□復習プリントなどの課題をとおして、基礎・基本の定着を図る。 □問題に取り組む中で、理由を考える機会を設ける。
	3年	○「図形」、「関数」、「データの活用」では、県及び全国平均正答率を大きく上回っている。 ●「数と式」の問題では、他に比べて平均正答率が低い。	□復習プリントなどを活用し、基礎・基本の定着を図る。 □数や式を処理する過程で、理由を考えさせながら授業を進めていく。
英語	2年	○記述式問題で、一つの問題を除いて、全国平均正答率を大きく上回っている。 ○聞くこと及び書くことは、市及び全国平均正答率を大きく上回っている。 ●「粒子」において、全国平均正答率と同程度である。 ●記述式問題において、無解答率が高い。	□教科書の本文を活用して、概要をつかむ言語活動を工夫する。また、初見の長文問題を週末課題とし、文章の概要や要点を読み取る力を育成する。 □英文を書くことができるように、小テスト問題を工夫し、基礎・基本の定着を図る。
理科	3年	○教科全体では、県平均正答率を大きく上回っている。 ○「知識・技能」について、県及び全国平均正答率を大きく上回っている。 ●「粒子」において、全国平均正答率と同程度である。 ●短答式問題では、県及び全国平均正答率を大きく下回っている。	□粒子の概念について、1年生や2年生の学習活動から丁寧に指導する。 □日々の授業やテストから選択式の問題だけでなく、短答式や記述式の問題演習を行う。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話し合いで、自分の考えを積極的に話している生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ○話し合いで、相手の考えをしっかりと聞き取っている生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ●授業中に「学習のめあて」が黒板などに示していると思う生徒、学習を振り返る活動を毎日行っていたと思う生徒の割合は、1、2年ともに市に比べて下回る。	・出雲市授業改善推進研究校(R4～R6)として、全校体制で授業改善に取り組む。 □教科部を中心とした授業参観と協議を行う。 □単元及び1時間単位のゴールを明確にし、それを生徒と共有する。 □自分の思いや考えを表現する言語活動の充実を図り、各教科の資質・能力の育成を図る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○生活習慣に関わる質問は、全学年で肯定的な回答が全国に比べて上回る。 ○自分で勉強の計画を立てて、勉強している生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ○自分で時間を決めて、テレビを見ている生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ●読書や自主的な学習(新聞記事を読む、そろばん、英検、テレビやラジオでの英語学習)に取り組む生徒の割合は、1、2年ともに低い。	・定期テストに向けた取組 □学習計画を立て、その取組を振り返る機会を設ける。 □保護者にコメントをもらい、家庭と連携して生徒を支援する。 ・「すこやかチャレンジ」の実施 □起床及び睡眠時刻、朝食の内容、メディア時間について、生徒自身が目標を設定し、振り返る週間を年4回設ける。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○自分が住んでいる地域が好きな生徒、自分のことが好きな生徒、自分が家の人から認められていると思う生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ○3年生は、将来の夢や目標を持っている生徒の割合が、県及び全国に比べて大きく上回る。 ○コロナ禍で地域の行事が減っている中で、3年生は、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある生徒の割合が、全国に比べて大きく上回る。 ●1年生は、学校が好きな生徒の割合が全国に比べて大きく下回る。	・総合的な学習の時間の充実 □地域のことを調べたり、自分たちにできることを考えたりして、学校で学んだことが社会に役立つことを実感するような学習をする。 ・キャリア教育の充実 □特別活動や道徳をとおして、自己を見つめ、生き方を考える機会を多く設ける。

令和4年度(2022)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第二中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【全国学力調査：中3対象】

○すべての教科において「県」または「全国」平均正答率と同程度かやや上回っており、おおむね良好な状況である。

●国語、数学および理科の「記述問題」に課題がある。

【市学力調査：中1・2対象】

○すべての教科で「市」および「全国」平均正答率とほぼ同程度か上回っている。特に数学と英語において「全国」平均正答率を大きく上回っている。

●英語の「リスニング問題」を含む「知識・技能」に課題がある。

●国語において、自分の考えをまとめ、条件に応じて書く問題に課題が見られる。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全体として「全国」平均正答率をやや上回り、「市」平均正答率と同程度であった。 ○「文学的な文章の内容を読み取る」問題において、全国や市の正答率よりやや上回った。 ●「文章全体の構成を捉える」ことに課題がある。 ●「記述式問題」において、条件に応じて自分の考えなどを書くことに課題がある。	□月別漢字テスト等を実施し、基礎学力の定着を図るとともに、日頃から「書く」活動に取り組む。その中で、正確な資料の読み取りをしたり、読み取った内容を整理し、目的に応じて文章を書く場を多く設けたりする。
	2年	○全体として「全国」及び「市」平均正答率と同程度であった。 ○「記述式問題」の平均正答率が「全国」と比べて大きく上回った。 ●話題の展開などを捉えて、互いの発言を結び付け、考えをまとめる問題に課題が見られる。	□資料にあるデータやグラフの読み取りをしたり、登場人物の会話の内容を整理したりする学習活動に取り組む。
	3年	○全体として「全国」平均正答率と同程度であった。 ●「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」ことに課題がある。 ●「記述式問題」において、条件に合わせて自分の考えをまとめて書くことに課題がある。	□定期テストだけでなく、日頃から「書く」活動に継続的に取り組む。その中で正確な資料の読み取りや、目的に応じた文章の書き方を計画的に指導する。
数学	1年	○「基礎」「活用」とともに全国の平均正答率を大きく上回った。また、領域別平均正答率も全国より大きく上回るものが多く、良好な状況である。 ●「単位数あたりの大きさ」、「データの活用」に関する問題は、誤答の解答率が正答を上回っており、理解が不十分な様子が見える。 ●小数や分数などを含む計算問題の正答率は高いが、文字を利用した問題に課題がある。	□「資料の活用」領域では、データをグラフから読み取る問題を多く設定する。 □文字式の計算の小テストなどを繰り返し取り組み、基礎・基本の定着を図る。
	2年	○「活用」に関する問題の平均正答率は「全国」平均正答率より大きく上回った。 ○領域に関する問題では、「数と式」「図形」「資料の活用」の平均正答率が「全国」平均正答率を上回り、良好な状況である。 ●「空間図形」では、おうぎ形の面積を求めたり、球の表面積を求める式を理解したりする問題に課題が見られた。	□基礎的・基本的事項の定着を図るために、小テスト・単元テストを計画的に実施する。 □既習事項を振り返りながら、新たな性質や公式を見出す場を大切に、十分に理解させた上で定着を図る。
	3年	○「図形」領域の平均正答率は「全国」と同程度であった。 ●「数と式」「関数」領域の平均正答率は「全国」を下回った。 ●各領域において、無解答の割合が「全国」に比べて高く、課題である。特に記述式の無解答率が高かった。	□小テストや問題演習に繰り返し取り組み、基礎・基本の定着を図る。 □自分の考えを小グループ内で発表する場を設ける。
英語	2年	○活用問題において「全国」平均正答率を上回り、「市」平均正答率を大きく上回った。 ●「リスニング問題」と「単語の並べかえ英作文」に課題が見られた。	□授業の中でALTやタブレットを活用し、様々な英語表現に触れる機会を確保する。 □授業内の帯活動や家庭学習を活用して、既習の単語や英文を復習する課題に取り組む。
理科	3年	○基本的な知識が定着しており、特に「粒子」を柱とする領域では「全国」平均正答率を大きく上回った。 ●自分の考えを適切な言葉で記述する問題に課題が見られた。	□日々の授業において、科学的な根拠に基づいて説明する活動をより一層取り入れる。 □授業の振り返りなどで、論点を明確にして記述する時間をもつ。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○国語、数学、理科の勉強が「好き」「大切」だと思っている生徒、また「学習した内容を普段の生活で活用しようと考えている」生徒の割合が「全国」平均より大きく上回った。 ○学習道具の準備をし、計画を立て、集中して勉強に取り組んでいる生徒の割合が「全国」平均を大きく上回った。 ●勉強に図書館や辞書を利用している生徒の割合が「全国」平均を大きく下回った。 ●「数学の問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」生徒の割合が「全国」平均をやや下回った。	□図書資料や辞書、タブレットなど、さまざまなツールを活用する課題を工夫するとともに、それらを利用しやすい環境を整える。 □生徒自身が解き方や考え方を吟味できるような授業の「めあて」を設定し、それに対する「振り返り」をしっかりと行う。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「家で学校からの課題で分からないことがあったとき、そのままにしている」生徒の割合が「全国」平均より大きく下回り、家族や友達に聞く生徒が多い。 ●「家の人から言われなくても、進んで勉強している」生徒の割合が「全国」平均を大きく上回り7割を超えたが、「学校の授業時間以外に、家庭や学習塾等で勉強する時間」について、平日2時間以上、週末4時間以上の生徒の割合が「全国」平均より大きく下回った。 ●「新聞の記事を読んでいる」生徒の割合が「全国」平均を大きく下回り、約2割であった。	□家庭学習ノート(自学ノート)の内容がマンネリ化しないよう、生徒がその日の学習を振り返り、次時の学びにつながるような宿題を各教科で充実させる。 □身近な出来事と教科等の学習のつながりを意識するよう、朝終礼や授業で時事問題を取り上げる機会を積極的にもつ。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」生徒の割合が、「全国」平均を大きく上回った。 ●「地域の行事に参加している」生徒の割合が「全国」平均を大きく下回った。 ●「携帯電話、スマートフォンの使い方について家の人との約束を守っている」生徒は全体の7割以上だが、「平日のゲームやSNS、動画の視聴時間が3時間以上」の生徒の割合が2割を超えた。	□地域の行事やボランティア活動などの紹介を積極的に行う。 □校外(地域)においても、場に応じた挨拶や会話ができるよう、授業や生徒会活動、部活動など、あらゆる場面で挨拶指導を徹底する。 □メディアの使い方について継続的な指導を行うとともに、校区の小学校とも連携して、家庭への啓発も随時行う。

令和4年度(2022)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第三中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○全教科において、教科全体、基礎・活用の正答率が、全国平均を上回るか、同程度である。
 ○1年生国語の観点別正答率は、市と同程度か全国を上回る。
 ○2年生国語の観点別正答率は、市と同程度で全国を上回る。
 ●3年生国語の観点別正答率は、知識・技能において県、全国をやや下回る。
 ●1年生数学の観点別正答率は、全国と同程度だが、市をやや下回る。
 ○2年生数学の観点別正答率は、全国を上回り、市と同程度である。
 ●3年生数学の観点別正答率は、思考・判断・表現において県と同程度だが、全国を下回る。
 ○2年生英語の観点別正答率は、市、全国と同程度である。
 ○3年生理科の観点別正答率は、県、全国と同程度である。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○主体的に学習に取り組む態度、思考・判断・表現が全国平均を上回っており、市平均と同程度である。 ●知識・技能は全国平均と同程度であり、市平均を下回っている。 ●領域の「情報の扱い方に関する事項」「読むこと」、問題の内容としては「漢字を読む」が全国平均を下回っており、語彙の獲得と論理的・分析的に文章を読むことに課題がある。	□漢字や語彙の学習を反復したり、文法事項の復習を取り入れ、活用に関わりつつ指導する。 □めあてとふりかえりを意識した授業展開を行い、論理的・分析的に文章を読む活動を繰り返す。
	2年	○ほぼ全領域において、全国平均をやや上回っている。特に、「読むこと」については市・全国の平均を大きく上回っている。 ●知識・技能の中の「漢字を読む」と我が国の言語文化に関する事項が全国平均をやや下回っており、漢字の読みや歴史的仮名遣いの理解に課題がある。	□月例漢字テストや授業における漢字テスト等を活用し、漢字の読み書きの学習に力を入れる。 □古典学習の際は、音読や暗唱などを取り入れ、歴史的仮名遣いへの理解を深める。 □学校図書館を活用した指導や読書指導に力を入れ、我が国の言語文化に興味をもたせる指導を行う。
	3年	○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」については、全国平均を上回っている。 ●「読むこと」については、全国平均を大きく下回っており、語彙の量と物語における心情を読み取る学習内容に課題がある。 ●「知識・技能」については、「我が国の伝統的文化事項について」下回っている。	□古典学習では、語彙や読むための知識の獲得を目指し授業をすすめる。 □心情を読み取るための技能の獲得を目指し、文学教材での学習の際に心情を考える場面を設定する。また、表現技法についても繰り返し指導し定着をはかる。
数学	1年	○全国平均とほぼ同程度である。 ●知識・技能では、異分母の計算、文字と式で値を求めることに課題がある。 ●思考・判断・表現では、いろいろなグラフの読み取りに課題がある。	□分数の計算など課題が感じられる内容は、機会をとらえて、復習を交えながら知識・技能を確実なものにしていけるような指導を行う。 □小単元や単元ごとにめあてを示し、めあてに対するふりかえりの充実をはかる。 □単元テストを行い、単元ごとの理解を確認する機会をもてるようにする。
	2年	○全国平均と比較すると教科全体で上回り、活用や思考・判断・表現では大きく上回っている。 ●知識・技能の中で、1次方程式を解くこと、比例の式からグラフをかくこと、おうぎ形の面積を求めることに課題がある。	□連立方程式の単元で1次方程式の復習をする、1次関数の単元で比例のグラフの復習をするなど、前年度の復習を交えながら知識・技能を確実なものにしていけるような指導を行う。 □めあてをもち、1時間の授業がまとまりのあるものとする。 □単元テストを行い、単元ごとの理解を確認する機会をもてるようにする。
	3年	○全国平均と比較するとやや下回り、県平均ではやや上回っている。知識・技能では、やや県平均を上回っている。 ●知識・技能では、一次関数の変化の割合の理解、箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることに課題がある。 ●思考・判断・表現では、数学的な表現を用いて、数の性質やデータの考察、事象を数学的に解決する方法を説明することに課題がある。	□二次関数の単元では、一次関数と関連づけた練習問題を丁寧に扱い、知識・技能を確実に身につけられる指導を行う。 □家庭学習ノートを活用して理解の定着を図る。個別指導を行うとともに主体的な学習に向かえるよう助言を行う。 □数学的な表現を用いて説明したり、証明したりすることに慣れるために、習熟に応じて条件を変えて演習を行えるよう工夫する。
英語	2年	○全国平均と同程度である。語彙力、3文以上の英作文の正答率が全国平均を上回っており、基本的な知識は身につけていると考えられる。 ●場面に応じた英文を作成することに關しては正答率が低い。既習文法事項を活用して応用的な作文をすることに課題がある。 ●簡単な英語は聞き取れるが応用的な会話を聞き取ることに課題がある。	□基礎基本を身につけるための学習を従来通り行う。 □身につけた知識を使って、生徒自身が表現したいことを話したり書いたりする応用的あるいは発展的な英語表現につながる学習活動を工夫する。 □必要に応じて生きた英語が使われている場面(テレビ、ラジオ、インターネット)を用いた学習活動を取り入れる。
理科	3年	○全国平均、県平均と比較するとほぼ同程度である。知識・技能では、県平均を上回っている。 ●知識・技能では、エネルギーの領域の理解、気圧の概念を空間的にとらえることに課題がある。 ●思考・判断・表現では、計画の妥当性を高めるための実験計画を検討し、改善することに課題がある。	□復習を交えながら知識・技能を確実なものにしていける指導を行う。 □家庭学習ノートを活用して理解の定着を図り、個別指導を行う。 □「探究の流れ」を大切にした授業を単元を厳選して取り組む。特に課題に対する結論をまとめる際など、他者と意見交換する場を積極的に設ける。 □天気図や地質図についての学習など、他教科と関わりのある内容については、他教科と連携を図りながら授業を行う。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表する」「各教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行う」割合が高い。 ○「授業中のPC利用」「授業中PCで調べる」割合が高い。 ●「課題でわからないことがあったとき、そのままにしている」割合が高い。 ●「勉強に辞書を利用」する割合が全国に比べて低い。 ●「読書が好きか」と答える割合が全国、県に比べて低く、「平日、読書を全くしない」割合が出雲市平均より高い。	□これまで以上にペア学習やグループ学習での話し合い、学び合いの活動場面を設定する。相手の意見をよく聞き、自分の考えをまとめて発表する場面を増やし、情報収集・情報活用能力が身につくように授業改善を行う。 □ICT機器を活用した効果的な学習を、質・量ともに充実させる。また、学校図書館の活用を推進し、図書や辞書などを利用して必要な情報を取捨選択できる力がつくように、授業展開を工夫する。
(2) 主体的な学習に関わりつつ家庭学習の充実	○「家で計画を立てて勉強している」と答える割合が大きい。 ●「スマホ、PCの使い方について家でルールを守る」「動画視聴時間」「平日のゲーム時間」についての肯定的な回答割合は、全国、県平均にくらべてすべて低い。 ●「平日のゲーム等メディア利用時間が2時間以上」と答える割合が出雲市平均より高い。 ●平日、土日、ともに家庭学習時間が全国、県に比べて少ない。	□生徒の実態に合った適切な学習課題を提供する。また家庭学習の内容が授業の理解につながることを意識して授業改善を行う。 □望ましい学習習慣や学習に対する主体的な態度の育成につながる学習方法や課題を提示する。また生徒の実態をつかみ、習熟度に合わせた声掛けや個別指導につなげる。 □保護者に理解と協力をあおぎ、メディア利用や基本的な生活・学習習慣の改善に向けた取組と啓発を行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答する割合が全国、県を上回る。 ●「地域の大人に授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりする」「地域の行事に参加する」と回答する割合が低い。	□感染症対策を図りつつ、保護者やコミュニティセンター等地域の理解と協力のもとに一層の連携を図り、学習活動の中に地域資源「ひと・もの・こと」を活用する工夫をする。

令和4年度(2022)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立河南中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1、3年生の学力調査では、国語、数学は全国や県の正答率とほぼ同程度の結果であった。3年生の理科は、全国平均を上回る結果であった。 ○2年生の学力調査では、3教科とも全国の正答率をやや、もしくは大きく上回る結果であった。 ○1年生の学習状況調査では、「寝る時間や遊ぶ時間を自分で決めている」という項目で、肯定的な回答が全国平均を上回っている。 ○2年生の学習状況調査では、「家の人から言われなくても進んで勉強したり、自分で計画を立てて勉強したりする」という項目で、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。また、「自分は友だちや家の人から認められていると思う」という項目でも肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。 ○3年生の学習状況調査では、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」という項目で、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。また、理科の授業において「自分の予想をもとに実験の計画を立てたり、観察結果をもとにレポートを書いたりする」項目で肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。 ●1、2年生の学習状況調査では、ともに「勉強に辞書を利用したり学習塾に行つて勉強をしたりする」という項目で、肯定的な回答が全国平均を大きく下回っている。 ●3年生の学習状況調査では、「地域をよくするために何をすべきか考えたり、地域の大人と関わったりすること」に関する項目で、肯定的な回答が全国平均を大きく下回っている。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○「情報の取扱いに関する事項」、「話すこと・聞くこと」の領域は、全国平均を上回っていることから、話の内容を捉える力は育っていると考えられる。 ●「書くこと」、「読むこと」の領域、「漢字を読む」、「文学的な文章の内容を読み取る」「文章を書く」内容では、全校平均を大きく下回っていることから、語彙力の不足から、内容を正確に読み取れなかったり、自分の考えを適切な言葉で表現することに課題があるといえる。	□語彙を豊かにするために、漢字の読み書きをはじめとする言語に関する学習時間を確保したり、言葉に関する知識を紹介したりする。また、漢字テストに向けての学習を通して、自分なりの漢字練習方法を身につけられるようにする。 □各単元ごとに作文を書く機会を設け、いろいろな種類の作文の書き方を練習させる。
	2年	○特に、「情報の扱い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」の領域は全国平均を大きく上回っており、話題を的確に捉え、構成を考えながら表現しようする意識が高まってきたと考えられる。 ●「文法・語句に関する事項」、「文章を書く」という内容については、わずかに平均を下回っていることから、既習事項を学習場面や表現活動のなかで、生かし切れていないことが課題であるといえる。	□既習の文法事項と新出事項を合わせて、繰り返し学習することで定着を図る。 □各単元ごとに作文を書く機会を設け、いろいろな種類の作文の書き方を練習させる。
	3年	○特に、漢字の書き取りについては、全国平均正答率を大きく上回っており、漢字テストや語句の指導を丁寧に行った成果が見られた。また、短作文指導の成果が特に記述式の問題の正答率が高さから伺える。 ●「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「我が国の言語文化に関する事項」の領域が全国平均正答率を下回っていることから、「論理の展開に注意して聞くこと」や「行書の特徴や読みやすい書き方について理解すること」に課題があるといえる。	□行書の学習については、言語事項の学習に合わせて繰り返し学習できる場を設定すると同時に、定期テスト等で学習の定着を確認できるようにする。 □文章構成や論の展開を意識して読む練習を継続して行うことで、聞き取りや読み取りのポイントを捉えられるようにする。
数学	1年	○全国平均と同程度であった。学習指導要領の4つの領域(数と式、図形、関数、データの活用)においては、図形は下回るものの、その他は同程度である。 ○内容別では、「単位量あたりの大きさ」「平均・場合の数」の正答率が高い。 ●「面積と体積」「平面図形」「データの活用」についての問題の正答率は、全国平均より下回っている。特に線対称な図形についての問題の正答率は、大きく下回っているため、図形の見方について課題が見られる。	□図形については、小学校の既習事項の学び直しに力を入れ、中学校の内容も習得できるようにする。 □小学校や1学期の既習事項の計算など基本的な技能の定着に力を入れ、学び合いや自分の考えを表現する活動を通して、活用できる力の習得を目指していく。
	2年	○全国平均を大きく上回っている。学習指導要領の4つの領域(数と式、図形、関数、データの活用)においては、どれも上回っており、特にデータの活用では大きく上回っている。 ○内容別では、「1次方程式」「平面図形」の正答率が高い。 ●「比例・反比例」、「データの分布の傾向」についての活用問題の正答率は、全国平均を大きく下回っている。身近な課題に対して、既習事項と結びつけ有効に活用することに課題が見られる。	□授業において、基本的な知識理解や技能の定着に加え、学び合いや自分の考えを表現する活動を多く取り入れていく。 □単元末では、章末問題等を利用して、活用問題に時間をかけて取り組めるようにする。
	3年	○全国平均と同程度であった。学習指導要領の4つの領域(数と式、図形、関数、データの活用)においては、数と式はやや下回るものの、その他は同程度である。 ●思考・判断・表現の正答率がやや下回っている。また、記述式の正答率がやや下回っているため、自分の考えを表現することに課題が見られる。 ●「素因数分解」、「一次関数の変化の割合」についての問題の正答率は、全国平均より大きく下回っており、意味理解が不十分であると考えられる。	□授業において、自分の考えを表現したり(ノートに記述する、相手に考えを伝える)、学び合いをしたりする機会を増やす。 □1、2年次に学習した内容については、授業中に定期的に復習をする。式の計算や方程式などの基本的な技能の習得はできているため、数学的用語の意味理解に力を入れ、知識の習得を目指していく。
英語	2年	○基礎・応用、領域別、観点別、すべての項目において、全国平均を上回っている。 ●問題別では「記述解答によるリスニング問題」や「代名詞の格」や「一般動詞過去形の疑問文」などの問題で全国平均より下回っており、一部の語法や語形の知識の定着に課題があるといえる。	□語彙・文法の小テストや家庭学習課題などを取り入れ、反復学習の機会を確保することで、基礎的な知識の定着、技能の取得を目指していく。 □「話すこと(やり取り)」「聞いて書く」などの技能統合の活動を行うことで、言語活動を充実させて、思考・判断・表現力を育成していく。
理科	3年	○学習指導要領の4つの領域は全国平均と比べてどれも上回っている。特に「生命」の領域が大きく上回っており、身の回りの現象に関心が高いといえる。 ○特に記述式の正答率が全国平均と比べて大きく上回っているのは、思考したことが表現できていると考えられる。 ●「おもりに働く重力とつり合力について説明する」問題の正答率が全国平均と比べ大きく下回っており、理解が不十分であると考えられる。	□「力のはたらき方」の単元の中で、力の合成と分解において、実験や作図を通して重力や力のつり合いについての理解を深めていく。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○3年生の理科の授業では、予想を立てて実験を行ったり、結果をもとに考察したりする授業が展開されたと考えられる。また、学級で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができたと回答した生徒の割合が全国平均よりやや高い。本校が話し合い活動に力を入れてきた成果であると考ええる。 ●3年生において、昨年度までの授業で「課題の解決に向けて、自分で考えて取り組んだり、学んだことを生かして考えをまとめたりする活動をしてきたか」という項目で、「当てはまる」の回答が全国や県と比較して下回っており、授業の進め方について課題があると考えられる。	□「めあてと振り返りを意識した授業」を今後も継続して行う。特に「めあて」に学習の視点や着眼点を明示するなどし、学習活動の方向性を明確にする。 □各教科や領域において、協働して取り組める課題を設定し、話し合い活動を積極的に取り入れ、多様な考えに触れたり、共感し合ったりする経験を積めるようにする。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○全学年とも基本的な生活習慣がおおむね身についている。 ○全学年とも、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」という項目で、1、2年生では「家の人から言われなくても進んで勉強している」という項目で肯定的な回答が全国平均を上回っており、家庭学習の習慣がおおむね身につけていると考えられる。 ●1、2年生は、「勉強に図書館や辞書を利用している」という項目や、「新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりしている」という項目で、肯定的な回答が少ない。分からないことを自分で調べようとしたり、進んで情報を得たりしようとする生徒の割合がやや少ないと考えられる。	□生活習慣のチェックを行ったり、メディアに関する講演会を行ったりすることで、生徒の基本的な生活習慣の一層の充実を図る。 □放課後等を利用して、生徒が主体的に学習できる場を確保する。 □小テストと家庭学習を連動させることで、家庭学習の成果が生かされるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○3年生で、「今住んでいる地域の行事に参加している」という項目で、1、2年生で「自分が住んでいる地域が好きである」という項目でそれぞれ肯定的な回答が全国平均を上回っている。このことから、自分たちの地域への関心が高いと思われる。 ●一方で、1、3年生で「地域をよくするために何をすべきか考えることがある」「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり遊んでもらったりすることがある」という項目で肯定的な回答が全国平均を大きく下回っている。地域への関心はあるが、主体的に関わっている生徒は多くないと考えられる。	□総合的な学習の時間を工夫することにより、生徒のふるさとへの愛着を深め、主体的に地域へ貢献したいという意欲を高められるようにする。 □地域と学校が連携して生徒の育成を図るよう、情報交換をしたり交流活動を行ったりするなど、積極的な働きかけをする仕組みづくりを行う。

令和4年度(2022)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立浜山中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1年生国語・数学、2年生数学では、市・県・全国と同程度もしくは上回っている。
○授業規律が整っており、学習に対して真面目に取り組む生徒が多い。
○学校や家庭、地域との関係は良好な結果が出ており、積極的にボランティア活動に参加する生徒も多い。
●2年生国語・英語、3年生数学・理科では全国平均正答率と比べて大きく下回っている。
●家庭学習については、与えられた課題に対しては真面目に取り組めるが、主体性には課題がある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○文章を書く問題では、敬語に対する自分の考えを明確にした上で、自分の体験を入れて書くことができる。 ●漢字の読み書きに関する問題では正答率が低く、小学校で学習した漢字が定着していないことが考えられる。 ●情報の扱い方に関する問題では、市の平均正答率を下回っており、情報活用能力に課題がある。	□家庭学習で漢字学習を継続的にできるよう、学校全体で行っている漢字テストに加えて学年で実施する漢字テストも継続的にやっていく。 □ペア・グループワークを授業に多く取り入れ、話の内容を捉えらるとともに、資料を活用した学習を授業で取り入れる。
	2年	○漢字の読みに関する問題は全国平均正答率と同程度である。 ●歴史的仮名遣いに関する問題の正答率が、全国平均正答率を大きく下回っている。 ●文章を書く問題の正答率が全国平均正答率よりも大きく下回っており、無解答率が2割程度であった。	□古文教材では、文章を繰り返し音読することで歴史的仮名遣いを読めるようにする。 □授業の中で、まとまった文章を書く機会を増やす。その際問題文をよく読み、条件にあった文章を書けるように指導する。また、生徒同士で互いの文章を読みあって評価できるような活動も取り入れる。
	3年	○スピーチをする際の工夫やその意図を考える問題において、全国平均正答率を上回っている。 ●文末表現を直す問題では全国平均正答率を大きく下回っている。 ●全体的に「適切なものを選択する」という問題の正答率が低い。文章を正確に読み取る力が不足していると考えられる。	□自分の書いた文章を推敲する力をつけるために、文のねじれや呼応の副詞を含む短文を推敲する活動に取り組む。 □文章を早く正確に読み取ることができるよう、授業の中で読む活動を積極的に取り入れる。朝読書にも力を入れ、文章を読む力をつけていく。
数学	1年	○正答率が市平均をやや上回り、全国平均を大きく上回っており、学年平均は目標値を上回っている。 ○計算技能の正答率が全国平均を上回っている。 ●割合に対する定着度の低さが見受けられる。	□各単元で小学校の既習事項の振り返りを行い定着度を高める。 □各授業で生徒一人一人の到達度を適切に捉え、基礎技能の着実な習得を図る。
	2年	○基礎の計算問題は昨年度と比べて正答率は高くなった。 ●記述式の問題では誤答率だけでなく、無解答率も高い。 ●文章題を読み取り立式することに課題がある。	□計算会などを通して身につけてきている計算力をさらに定着させていく。 □授業の中で自分の考えを発表する機会をペアワークやグループワークを通して増やしていく。
	3年	○計算問題に関しては正答率が高い。 ○データの活用は県平均正答率を上回っている。 ●思考・判断・表現の問題は全国、県平均正答率に比べ大きく下回っている。 ●「図形」の領域において、全国平均正答率を大きく下回っている。	□論述やレポート作成、グループでの話し合いなど多様な活動を取り入れることを通して、「数学的な見方・考え方」を育成する。 □「図形」の領域の学習において、既習事項の復習を行うとともに、小テストなどを通して知識・技能の定着を図る。
英語	2年	○「英文を正しい語順で書くこと」「対話の流れに合った英文を書くこと」については正答率が高い。 ●たずねられたことに対して自分の考えを英語で答えることについては課題がある。 ●「ALTと積極的に英語で話している」という質問へはどの学年も肯定的な回答が全国平均を大きく下回っている。	□単語や文型テストを継続して行い、基礎の定着を図る。 □ペアやグループ、ALTとの言語活動で、学んだ英語を活用しながら自分の考えや思いを伝える活動を増やす。
理科	3年	○2分野(気象)については全国平均正答率を上回る結果となっており、生徒の興味も高い。 ●基礎的な知識となる問題が全国平均正答率を大きく下回っている。 ●思考・判断・表現に関する問題が全国平均正答率を下回っている。	□導入部分における問題提起において、生徒の現状をよく理解し、より興味、関心を引くことができる内容を展開する。 □基礎的な知識に課題があることから、小テストや単元プリントを活用し、基礎的な知識の定着をはかる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「授業中、自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたりして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」という質問へは多くの生徒が肯定的な回答をしている。 ○「授業の後で、授業の前と比べて、自分の考えが深まったと感じることがありましたか」という質問へは多くの生徒が肯定的な回答をしている。 ●「将来の夢や目標を持っている」という質問には肯定的な回答が多いが、授業で学んだことを生活の中で生かしたり、将来の夢につなげようという主体性に課題がある。	□各教科等の「学び合い」や学級活動での話し合い活動を積極的に取り入れ、課題解決型の授業を展開する。 □「キャリア・パスポート」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする機会を設ける。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○各教科において「授業で習ったことを復習している」「宿題をきちんとしている」との回答が高く、与えられた課題に真面目に取り組める生徒が多い。 ●「学校に行く日は、学校の授業時間以外に、1日どのくらい勉強しますか」という質問に対して「30分くらい」か、それ以下という回答が半数近くに上っており、予習をするなど自ら進んで学習に取り組んでいる生徒は少ない。	□家庭学習の充実と生活習慣の見直しを、学校と家庭で連携して継続して行う。 □課題の出し方を工夫したり、生徒が自分に合った勉強方法を確立できるよう取り組み方をアドバイスする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」と回答している生徒の割合が全国平均に対して高い。また「地域や社会をよくするために何をしたらよいか、考えることがありますか」という質問へは、肯定的な回答をした生徒の割合が市の結果よりも高くなっている。 ●「新聞記事を読んでいる」と回答している生徒の割合が全国平均に対して低い。社会に関心をもって関わろうとする意識に課題がある。	□地域学校運営理事会やPTA等との連携を密にする。 □図書室や廊下などに生徒が新聞を手に取りやすい環境を作る。生徒会活動の中で生徒が時事問題に関心を持つような取組を継続して行う。

令和4年度(2022)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立南中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

出雲市学力調査の結果 ○1年生の数学の正答率は全国・出雲市の平均正答率と同程度だった。 ○2年生の国語・数学の正答率は全国・出雲市の平均正答率を大きく上回っていた。英語は出雲市の平均正答率をやや上回り、全国の平均正答率と同程度であった。 ●1年生の国語の正答率は全国・出雲市の平均正答率を大きく下回っていた。 全国学力調査の結果 ○3年生の国語の正答率は島根県・全国の平均正答率をやや上回っており、出雲市の平均正答率と同程度であった。 ○3年生の数学の正答率は全国、島根県、出雲市の平均正答率を大きく上回っていた。 ○3年生の理科の正答率は島根県の平均正答率をやや上回っており、全国・出雲市の平均正答率と同程度であった。
--

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○「主体的に学習に取り組む態度」は出雲市、全国の平均正答率をやや上回るか、同程度である。 ●「書くこと」は全国の平均正答率をやや上回っているが、出雲市の平均正答率は下回っている。 ●「話すこと・聞くこと」「読むこと」は出雲市、全国の平均正答率を大きく下回っている。	□今後も「学び合い学習」を通して、自分の考えをもちながら、学習に臨む態度を涵養していく。 □互いの立場や意図を理解し、自分の考えをもったり、著者の主張についての考えをまとめたりする時間を設定し、「読むこと」の力の伸長をめざす。 □文法、語句に関する学習はくり返し学習を通し、定着を図る。
	2年	○「言語の特徴や使い方について」「情報の扱い方について」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は出雲市、全国の平均正答率を大きく上回っている。 ○「我が国の言語文化に関する事項」は出雲市、全国の平均正答率と同程度である。	□今後も「学び合い学習」を通して、学習内容が深まるよう努める。 □課題探求的な授業方法を取り入れ、主体的に学習に向かう態度の涵養をめざす。 □文法、語句に関する学習はくり返し学習を通し、定着を図る。
	3年	○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「情報の取り扱いに関する事項」は島根県、全国の平均正答率を大きく上回っている。 ○「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」は島根県、全国の平均正答率と同程度である。	□今後も「学び合い学習」を通して、学習内容が深まるよう努める。 □課題探求的な授業方法を取り入れ、主体的に学習に向かう態度の涵養をめざす。 □段落を意識して文章を読み取ったり、登場人物の気持ちの変容に注目しながら文章を読んだりする活動を通し、読解力の伸長をめざす。
数学	1年	○「数と計算」「図形」では、全国の平均正答率を上回っており、出雲市の平均正答率と同程度である。 ●「変化と対応」では、全国の平均正答率を下回っており、出雲市の平均正答率を大きく下回っている。	□「学び合い」学習を通して、さらに学習内容の定着と向上を図る。 □自学ノートへの取組を通して、個々の学習への取組状況を把握し、個別に指導が必要な生徒への支援を行う。 □毎時間確認テストを行い、基本的な内容の定着を図る。
	2年	○「数と式」「関数」「データの活用」では、全国、出雲市の平均正答率を大きく上回っている。 ○「図形」は全国、出雲市の平均正答率をやや上回っているか、同程度である。	□「学び合い」学習を通して、さらに学習内容の定着と向上を図る。 □自学ノートへの取組を通して、個々の学習への取組状況を把握し、個別に指導が必要な生徒への支援を行う。
	3年	○全ての領域で全国、島根県、出雲市の平均正答率を大きく上回っているか、上回っている。	□「学び合い」学習を通して、さらに学習内容の定着と向上を図る。 □自学ノートへの取組を通して、個々の学習への取組状況を把握し、個別に指導が必要な生徒への支援を行う。
英語	2年	○「さまざまな英文の読み取り」「長文の読み取り」では、全国、出雲市の平均正答率を大きく上回っている。 ●「単語の並べかえによる英作文」では、全国、出雲市の平均正答率を下回っているか、やや下回っている。 ●「場面に応じて書く英作文」は全国、出雲市の平均正答率をやや下回っているか、大きく下回っている。	□生徒の強みである「読むこと」「聞くこと」「話すこと」と、課題である「書くこと」を結び付けた言語活動を行い、正確に書く力を育む。 □場面に応じた英文が書けるよう、英作文の際は、目的や状況を設定し、まとまりのある英文を書く力を育む。
理科	3年	○「粒子」「生命」を柱とする領域では、全国、島根県の平均正答率を上回っているか、やや上回っている。 ○「地球」を柱とする領域では、全国、島根県の平均正答率と同程度である。 ●「エネルギー」を柱とする領域では、全国、島根県の平均正答率を大きく下回っているか、下回っている。	□実験や観察、結果の考察、事象の分析等をていねいに行い、さらに学習内容の定着と向上を図る。 □学習内容と、日常生活の中でのさまざまな現象を、例をあげながら結びつけていく。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているという生徒の割合が高い。 ○自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行ったと答えた生徒の割合が高い。 ○課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと答えた生徒の割合が高い。 ●資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する点に課題がある。	□校内で授業公開を全教員が行い、授業改善を進めていく。 □ICT機器の活用方法を工夫し、生徒の情報活用能力を高める。 □生徒が主体的に取り組める授業、学校行事、生徒会活動等を行い、言語活動の充実を図る。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○家で自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合が、全国・出雲市に比べて高くなっている。 ○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると答えた生徒の割合が高くなっている。 ●1日あたりの家庭学習の時間は全国・出雲市に比べて短い。	□各学級、教科で自学ノートへの取組をし、主体的な学習習慣づくりを進める。 □家庭学習計画表を作成したり、各教科の学習ガイダンスを行ったりして、学習方法を見直す機会を作る。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域の行事に参加する生徒の割合が全国・出雲市に比べて高い。 ○地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある生徒の割合が全国、出雲市に比べて高い。	□「ゴミゼロ運動」「職場体験学習」「しいたけ食菌活動」などの活動を通して、地域の人、こと、ものを知る活動が続けていく。 □校区内の小中学校で行っている「あいさつ」「履き物そろえ」の徹底を図り、地域の方と進んで関わる意識を育てる。

令和4年度(2022)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立平田中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 学校生活を楽しく送っている生徒が多い。
- 規範意識が高く、ほとんどの生徒が学校のきまりを守って生活している。
- 自分にはよいところがある、友だちや家族、先生から認められていると答える生徒の割合が高く、居場所のある学校づくり、自尊感情を育成する取組の成果があった。
- 将来への希望をもち、人の役に立ちたいと考えている生徒が多い。
- 国語、数学の正答率が市・全国の平均と同程度である。
- ゲームをしたりネットの動画を見たりする時間が長い。半数近くの生徒が1日3時間以上ゲームやネットの動画の視聴を行っている。
- 授業で分からないところがあっても、そのままにしている生徒が多い。
- 英語、理科の正答率が市・全国の平均を下回っている。
- 教科で身につけた力を生活や他教科の中に生かそうとする意識がやや低い。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	全体の正答率が、全国を上回り、市と同程度である。 ○領域別に見ると「情報の取り扱いに関する事項」「書くこと」で全国平均を上回っている。 ●話の内容を聞き取り、相手に質問をしたり、自分の考えを加えたりして、考えを深めるといふ点にやや課題がある。	□書く活動を重視する。文章の書き方の指導に加えて、日常の体験と重ねさせたり、他の文章から引用をさせたりして、より豊かな表現力の育成を図る。 □話し合いのスキルを身につけさせる。ペア学習、グループ学習の充実を図るとともに、共感したり、質問したり、感想を加えたりするスキルの育成を図る。
	2年	全体の正答率が全国や市と同程度である。観点別にみると、「知識・技能」「思考・判断・表現」は全国・市と同程度であるが、「主体的に学習に取り組む態度」が下回っている。 ○話し合いの内容を聞き取ったり、文学的な文章の内容を読み取ったりする問題は、全国や市をやや上回っている。 ●文章を書いたり、説明的な文章の内容を読み取ったりする点に課題がある。	□国語への関心が高まるように身近な話題を取り上げたり、教材文に関連する発展的な内容に取り組んだりする。 □書く活動を重視する。到達すべき目標を意識して活動に取り組めるように、評価の観点を明確に示す。 □説明的な文章の学習では、文章の構成や展開、段落同士の関係を根拠を明確にして考えさせ、内容を的確に読み取る力の向上を図る。
	3年	全体の正答率が全国や県と同程度である。短答式の正答率は全国や県をやや上回っているが、記述式は全国をやや下回っている。 ○「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国や県を上回っている。 ●観点別にみると「思考・判断・表現」で全国や県を大きく下回っており、文章を書くことや、読むことに課題がある。	□文章を分析的に読む力をつける。読解の視点を明確に示すことで、複数の文章の中で、必要な情報を把握する力の育成を図る。 □様々な文章の型を提示し、論理的に文章を構成する力を育成する。
数学	1年	全体の正答率は市をやや上回り、全国を大きく上回っている。知識・技能で全国、市を上回っているが、思考・判断・表現は市と同程度である。 ○「図形」の領域、特に「空間図形」の領域の正答率が高い。 ●「文字と式」の領域では、全国、市をやや下回っており、課題が見られる。 ●数の性質を説明することに課題がある生徒が多い。	□グループ活動を積極的に活用し、数学的な説明ができるように指導する。 □生徒の実態に合わせた宿題を提示し、授業で理解した内容の定着を図る。 □文字を使った説明など、生徒が繰り返し確認できるように丁寧に指導し、抽象的な問題への苦手意識を取り除いていく。
	2年	全体の正答率は全国をやや上回り、市と同程度である。知識・技能では全国、市を上回っているが、思考・判断・表現では市を下回っている。 ○「図形」領域は正答率が高い。 ●特に活用問題には課題が見られる。 ●文字式を使って、説明することに課題がある。	□グループ活動を積極的に活用し、生徒同士で考える時間を確保する。 □生徒の実態に合わせた宿題を提示し、授業で理解した内容の定着を図る。 □これまで通り、自分の考えを書かせる取組を続け、数学的な表現で説明できるように指導していく。
	3年	○記述式の正答率はやや低いが、無解答率が低いのは、授業や定期試験で書かせる活動をしてきた成果と思われる。 ○合同条件や連立方程式など繰り返し取り組んだところは、正答率が高い。 ●数の性質について、式を変形して説明することに課題がある。 ●データを分析し、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。 ●関数における式・表・グラフの捉えに課題のある生徒がいる。	□これまで通り、自分の考えを書かせる取組を続け、さらにより良い表現を丁寧に書かせるようにする。 □知識技能の習得に時間を確保し、数学的な表現力につながるようにしていく。 □一人一人のつまづきや課題を把握し、解法の助言を個々に言い、不得意な問題にも粘り強く取り組むよう指導する。
英語	2年	平均正答率は市・全国平均をともに下回る結果となった。領域別では「聞くこと」、観点別では「知識・技能」が大きく下回った。問題形式では「語形・語法の知識・理解」が下回った。 ○まとまった内容の文を書くことについては全国平均と同程度であった。 ●表現の能力、記述する能力に課題がある。 ●正答率の高い生徒の割合が市・全国平均よりも低い。	□基礎・基本(特に語彙と文法)の学習活動を復習を取り入れて充実させる。 □英文の正しい語順を意識させながら、身近な内容について簡単な英語で表現する機会を増やしていく。 □まとまった英文を読んだり聞いたりする機会を充実させて、読解力とリスニング力の向上を図る。
理科	3年	平均正答率は全国平均より下回る結果となった。領域別では「生命」、観点別では「知識・技能」が大きく下回った。問題形式では「記述式」が下回った。 ○無解答が少なく、考えようとする意欲がある。 ●正解に到達するために必要な正しい知識の習得に課題がある。 ●知識をもとに根拠を明確にし解答する問題の正答率が3割と、課題がある。	□1, 2年生の復習をこまめに行う。(重要語句小テストなど) □3年生の学習を進める際、「これまでに学んだこと」など関連のある内容については、きちんと復習をして定着を図る。 □実験後の考察の時間を十分に取って、根拠をもとにした記述に重点を置き、論理的思考力を育成する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○ほとんどの授業ではじめに「めあての提示」がなされ、終わりに「ふり返り」が行われている。 ○自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりして、考えを深めることができたと答えた生徒が多かった。 ●学年が進むにつれて、自分の考えを伝えようとする生徒が少なくなっている。 ●ICT機器を活用した授業改善に課題がある。	□出雲市授業スタンダードに沿った授業を進めていく。 □主体的・対話的で深い学びをめざす授業、生徒に身につけさせる資質・能力を明確にした授業を進めるための教科部会を行う。 □思考力・判断力・表現力を図る定期テストの問題づくり等、評価を工夫していく。 □ICT機器の活用について全体計画を作成し、共通理解を図り活用を進めていく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○ほとんどの生徒ができるかぎり自分の力を伸ばしたいと考えている。 ○毎日1時間以上家庭学習に取り組んでいる生徒が市平均・全国平均を上回っている。 ●2時間以上、家庭学習に取り組んでいる生徒が全国平均を大きく下回っている。 ●1日3時間以上ゲームやネットの動画を見ている生徒が多く、家庭学習をほとんどしない生徒もいる。	□授業内容を定着させる家庭学習の課題や授業の先行学習となる家庭学習の課題を工夫し、授業と家庭学習とのサイクルづくりを進める。 □学習を通して何が身につく、何が身につけていないのか、またさらに力を伸ばすにはどのようにしたらよいのかを生徒に示し、効果的な家庭学習が進められるようにする。 □全ての生徒が毎日学習に取り組めるように自主学習ノートの取組を継続していく。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域に愛着をもち、地域の行事に参加している生徒の割合が高い。 ○地域の一員として社会や地域をよくしようと考えている生徒の割合が全国平均を上回っている。	□キャリア教育、ふるさと教育との関連を図りながら、地域をテーマとした総合的な学習の時間のカリキュラムを作成する。 □地域の特色を生かし、自然、文化、人材の活用を図るとともに、ボランティア活動等の生徒が積極的に地域と関わる活動を活発にする。

令和4年度(2022)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立向陽中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1年生の国語・数学は、市の平均正答率を上回り、全国の平均正答率を大きく上回りました。
○2年生の国語は、市の平均正答率と同程度で、全国の平均正答率をやや上回りました。
○2年生の数学・英語は、市、全国の平均正答率と同程度でした。
○3年生の国語は、市、全国の平均正答率を大きく上回りました。
○3年生の数学は、市の平均正答率をやや上回り、全国の平均正答率と同程度でした。
○3年生の理科は、市の平均正答率を上回り、全国の平均正答率をやや上回りました。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○漢字の読み書きに関する問の正答率が高いです。 ●作文において、無解答である生徒の割合が2割を超えていました。 ●資料をもとに自分の考えを伝えることに課題があります。 ●文章全体の構成を捉えることに課題があります。	□授業において、課題作文を書く活動を多く設定します。 □説明文では、文章の構成、事実と主張の区別が正確にとらえることができるように、設問を工夫します。
	2年	○「読むこと」の正答率が高いです。特に、必要に応じて記録しながら話の内容を捉えたり、複数の意見を結び付けてまとめる正答率が全国平均を大きく上回っています。 ●全国平均と比べて「書くこと」の正答率がやや下回っています。課題作文の要点を捉え、条件に従って自分の考えを述べることに課題があります。	□時間を計って、条件に応じた作文を書く機会を定期的に設けます。 □要約をする機会を増やします。その際、要約のポイントを確認し、個別に添削をします。
	3年	○市、全国に比べて、すべての領域で、正答率が高かったです。 ○市、全国に比べて、全ての問に対する無解答率が低いです。全体的には、時間内に問題に目を通して記述することができています。 ●論の展開を把握することに課題があります。	□説明文で、意味段落に分け、それがどんな構成になっているのか理解し、説明する学習の機会を増やします。 □事実と筆者の意見、根拠と結論を区別する学習を定期的に設けます。
数学	1年	○全領域において、市、全国平均正答率を上回る正答率です。「数と式」、「図形」の領域において、小数、分数の計算や基礎的な図形の知識を利用して問題を解くことに強みがあります。 ●文章問題の意味を図に表したものを選択することやデータの分布を活用した問題を解くことに課題があります。	□データの活用学習では、データの傾向を捉えるために必要な用語の意味を理解し、それを用いて説明するような課題を設定します。 □図形、関数の領域では、図・式・グラフについて、数学的な用語を用いて説明できるような課題を設定します。
	2年	○「数と式」、「図形」、「関数」の領域では、概ね市、全国平均正答率と同程度となっています。 ●「データの活用」の領域において、「累積度数」や「相対度数」の意味や求め方を問う問題に課題があります。 ●同じく「データの活用」の領域において、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題に課題があります。	□データの活用領域において、「累積度数」や「相対度数」の意味や求め方について復習する時間を増やします。 □データの傾向を説明する場面を増やし、数学的な表現のしかたが身につくよう課題を設定します。
	3年	○「数と式」、「図形」、「データの活用」の領域では、計算や一次方程式を解くことに強みがあります。 ●「関数」の領域では、グラフや資料の特徴を読み取り、立式をしたり、説明したりすることに課題があります。	□関数の学習では、比例・反比例など既習事項を復習し、2つの数量関係を表・式・グラフを利用して説明できるよう、関数の関係にある事象に多く触れる課題を設定すると同時に基本的な知識の復習を取り入れます。 □単元の導入時に既習内容を取り入れ、基本的な内容の定着を図ります。
英語	2年	○全領域で概ね全国平均・市平均と同程度となっています。「読むこと」においては、全国平均・市平均を上回る正答率となっており、さまざまな英文や長文を読み取る知識・技能が身についています。 ●「聞くこと」に関する領域では、市平均とは同程度ですが全国平均をやや下回る正答率となっています。特に、対話の内容を聞き取り、適切に回答することや、英文を聞き取り、その内容に対して自分の考えを英文で書くことに課題があります。	□対話の流れをふまえて適切に応じる力をのばすために、即興でやり取りをする活動を増やします。 □授業やテストにおいて、英文を聞き取り、たずねられたことに對して自分の考えを英語で書く機会を増やします。
理科	3年	○全領域において市平均、全国平均を上回る平均正答率です。 ●おもりに働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力が、何が何に対して作用している力なのかを説明する問題を解くことに課題があります。力のはたらきの基礎的な知識と問題文の意図を汲み取る読解力に課題があります。	□基礎的な知識・理解の定着を図るため、継続的に小テストを実施します。 □自分の考えを説明するために、考察を文章化するワークシートを活用します。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「困っている人の手助けをしている」と肯定的に回答した割合が全国の割合を上回っており、ペア学習や話し合い活動でも協力し学び合う活動ができています。 ○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を収集・整理し、調べたことをまとめて発表することに意欲的に取り組む生徒の割合が全国の割合を上回っています。 ●授業の取組は良好ですが、分からないことを見直し、さらに探究し、粘り強く理解しようとするのは全国の割合を下回っています。 ●学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うことは勉強に役立つと考える生徒の割合は高いものの、授業でのICT機器の使用頻度が少ない状況が課題です。	□効果的な「めあて」を提示し、授業の「振り返り」から生徒の理解の把握に努め、「何に困っているのか。」「さらに分かりたいことは何か。」を意識した授業づくりをしていきます。 □授業において、個人思考の場面やペア・グループ活動の場面で、考える視点をしっかりと提示し、学びを深める学習を進めます。 □教員の指導力向上のため、研究授業の実施、教員同士の授業互見、ICT機器活用のための実践共有を行います。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○家庭で自分で計画を立てて、学習に取り組む生徒の割合は、全国の割合をやや上回っており、宿題や習ったことを復習することは概ね定着しています。 ●平日、1時間以上の家庭学習の習慣を身につけている生徒の割合が多いですが、学習の内容や質には課題が見られます。 ○読書をする生徒の割合は、学年が上がるほど全国の割合を上回っています。さらに、家庭にある本の冊数も全国の割合を上回っています。 ●辞書や書籍を使って、学習する生徒の割合、また、新聞を読む習慣は全国の割合を下回っています。	□各学年で行っている自学ノートの取組や定期テスト前の学習計画書の活用を継続し、家庭学習時間の確保、学習の質の改善を図ります。 □キャリアパスポートを通して自己理解を深め、学習への意欲を高められるようにします。 □授業においても辞書を活用する等、学校図書館を利用し、本に親しむ機会を設定します。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」と肯定的に回答した生徒の割合が全国の割合を上回っています。 ○規則正しい生活を送ることができる生徒の割合が高く、校内・校外・地域での挨拶等のコミュニケーションが図られています。 ●将来の夢を持っている生徒の割合は全国の割合を下回っていますが、学校・家庭から認められているという意識を持つ生徒が多くなっています。	□総合的な学習の時間や、学校行事等を通して、地域についてより深く学ぶことができる学習活動を推進します。 □ホームページや、学年・学級だより等を通して、地域や保護者への情報発信を積極的に行います。 □学校内だけでなく、校外においても、継続して地域の皆さんへ挨拶することを指導していきます。

令和4年度(2022)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立佐田中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 1年生は平均正答率は国語、数学とも市を大きく上回った。
- 2年生は平均正答率は国語は全国や市と同程度であり、数学と英語は全国、市を下回った。
- 3年生は国語の平均正答率は全国や県を大きく上回った。数学と理科は全国や県と同程度である。
- 「地域が好きである」に肯定的に回答している生徒の割合が高く、「地域の行事に参加してしている」と回答している生徒の割合も高い。
- 学年によっては家庭学習にける時間が十分とは言えない。
- 各教科とも「活用」問題の正答率が低いことから、学んだことを応用する力に課題が見られる。
- 1年生は「自分には良いところがある」など自己有用感(自尊感情)に係る質問に肯定的に回答する生徒の割合が全国に比べて低い。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○教科全体、基礎、活用ともに、全国平均を上回っており、特に基礎においては大きく上回っている。 ○「主体的に取り組む態度」の正答率の高さから、粘り強く学習に取り組む、「書くこと」の正答率の高さにつながっていると考えられる。 ●「我が国の言語文化に関する事項」は、全国平均と同程度の正答率だった。 ●問題や文章の全体を捉える力にやや課題が見られる。	□言語文化の学習の際には、日常生活に関連させて興味を持たせ、丁寧に説明をして理解を深める。 □「読むこと」の学習において、全文を通読した後大まかな内容を押さえるなど、全体を意識する活動を行う。
	2年	○教科全体、基礎、活用のすべてにおいて、平均正答率と同程度である。 ○言語や情報の領域では正答率が高く、知識・技能の観点において強みがあると言える。 ●「読むこと」の正答率が全国平均を下回っており、特に説明的文章の読み取りに課題が見られる。 ●「思考・判断・表現」の観点、選択形式の問いに対して課題がある。	□説明的文章の学習において、文章の構成や展開の読み取りを細やかに行う。 □文章の内容とともに選択肢もじっくりと読み取り、的確に思考、判断する力を養う。
	3年	○教科全体を通して、全国平均を大きく上回った。 ○言語の特徴や使い方に関する事項や我が国の言語文化に関する事項の正答率が高く、知識・技能の観点に強みがある。 ○場面と場面、場面と描写を結びつけて内容を理解するなど、読むことにおいて全国平均を大きく上回った。 ●自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く力や情報を正しく捉える力に課題がある。	□説明的文章の学習において、書いてある情報が正しく理解できるように文章の構成をふまえた読み取りを細やかに行う。 □作文の課題に取り組むときに、根拠を明確にして書くことや自分の考えが伝わるような表現を工夫するスキルが身に付くようにする。
数学	1年	○全体を通して全国平均を大きく上回っている。領域では数と計算、変化と関係、データの活用で大きく上回っている。 ●単位当たりの大きさや、基準量と比較量から割合を求める問題に若干の課題が見られた。	□授業の中で割合や比に関することを取り扱う際に繰り返し概念を確認する。
	2年	○数の集合と四則計算の可能性や素因数分解では全国平均を上回るものも見られた。数量の関係を不等式に表す問題は全国平均を大きく上回る結果であった。 ●全体として全国平均を大きく下回っている。領域では図形、データの活用で課題が見られる。観点別では知識・技能に課題が見られる。1次式の減法や球の表面積に課題が見られた。	□授業の中で大切なポイントをおさえながら授業を行い、前時とのつながりや既習内容を使って考えることを確認する。 □授業で理解したことを確実に使えるようにするための家庭学習を促す。
	3年	○全体を通して、正答率は全国平均と同程度であった。領域ではデータの活用で全国平均をやや上回り、どの観点でも全国平均と同程度であった。無解答率が全国平均を下回る問題がなかった。反例や確率の意味を答える問題で全国平均を大きく上回った。 ●領域では数と式で全国平均を大きく下回っている。短答式の問題での正答率が全国平均を下回る。複数の情報から必要な情報を読みとり答える問題で課題が見られた。	□授業の中で、前時とのつながりや既習内容を使って考えることを確認するようにし、数と式の解き方を理解できるようにする。 □授業で理解したことを確実に使えるようにするための家庭学習を促す。
英語	2年	○領域の中の「書くこと」を問う問題と、「主体的に学習に取り組む態度」を問う問題の正答率は全国と同程度であり、伝えたい内容を正確に書いたり、諦めずに取り組む力はある程度ついている。 ●「知識・技能」の「語法、語形」を問う問題の正答率が全国平均をやや下回る。 ●まとまった英文から正しく情報を読み取る力に課題が見られる。	□既習の文法事項や単語を繰り返し活動の中に取り入れ、学習内容の定着を図る。 □教科書の本文を含め、まとまりのある英文を読む機会を増やす。また、読み取りのポイントを与えるなどして理解しながら読む活動を積極的に取り入れる。
理科	3年	○エネルギー領域(物理分野)、粒子領域(化学分野)の正答率が、全国平均に比べて上回る。 ●地球領域(地学分野)の正答率は、全国平均に比べて下回る。 ●測定値をまとめた表から、それをグラフに表すことに課題が見られる。 ●地層の傾きを考える問題では、時間的・空間的な見方を働かせて思考することに課題が見られる。	□生徒の理解度・定着度を小まめに把握し、必要に応じて補充学習を行う。 □グラフを作成したり、それをもとに考察する場面では、特に細やかな助言、支援を行う。 □さまざまな見方を働かせて思考する場面では、教材の提示方法を工夫することで、生徒のイメージ化を促す。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1、2年生ともに「主体的に学習に取り組む態度」については、全国平均を上回っている教科が多い。 ○各教科の記述形式の問いに対する正答率が高く、無解答率が低いことから、意欲的に学習に取り組んでいることが伺える。 ○授業ではしっかりと先生の話の聞いたり、ノートをきちんととったり、宿題をするなどすべきことを真面目に取り組んでいる。 ●自分で工夫しながら学習に取り組むことに課題がある。	□授業で習ったことが使いこなせるまで身につけているか、身に付けるためにどう学習するかを考える機会を与える。 □(英語)話す、読む、聞く、書くなどの様々な技能を習得するための指導を工夫する。 □提示する課題の内容を工夫する。 □生徒が、各教科の見方・考え方を働かせながら意欲的に取り組めるような工夫を凝らす。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○全体的に基本的な生活習慣が身につけており、授業や学校生活に真面目に取り組んでいる。 ○家庭では規則正しい生活を送り、家族とのコミュニケーションはおおむね良好である。 ○自分で勉強の環境を整えながら、計画を立てて学習に向かう生徒が多い。 ●自己肯定感・自己有用感は学年差や個人差が大きい。 ●新聞や本を読んでいる生徒が少ない。上位層においては、就寝時刻やテレビを見る時間を決めていない傾向が見られる。	□キャリア教育を充実させ、自己有用感や自らの可能性について考えさせ、進路実現に向けても努力を促す。 □テスト前の学習計画表において、生活面も含めて考えるようにする。 □タブレット等を利用し、新聞記事に触れる機会を増やす。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域の行事に参加している」の質問に肯定的な答えをしている生徒が多い。また、地域や社会のために何をすべきか考えることがある生徒の割合も多いことから、地域との結びつきが強いと考えられる。 ○家の手伝いや困っている人の手助けをしていると回答している生徒は国・県の平均より高い。 ●「家の人に学校のことを話している」に肯定的な回答をしている割合は学年で差がある。	□それぞれの生徒の理解に努め、指導・支援にあたる。 □ふるさと学習を活かして、地域や社会に目を向けさせ、意図的に新聞やニュースの内容に関心をもつように促す。 □様々な場面で地域の方に支えてもらって学校の教育活動が成り立っていることを機会あるごとに話をする。

令和4年度(2022)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立多伎中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【1年生】○平均正答率は、国語、数学ともに市を下回り、全国とは同程度であった。 ●国語では特に「漢字を書く」や「文章を書く」に課題があり、数学では特に「平面図形」や「データの活用」に課題が見られた。 【2年生】○平均正答率は、国語、数学、英語ともに市・全国を大きく上回った。 【3年生】○平均正答率は、国語、数学、理科ともに市・県・全国を大きく上回った。特に理科は良好な結果であった。 1年生では、主体的に学習に取り組む基本的な姿勢は概ね身に付いている。2年生では、話し合いで自分の考えを積極的に話す、相手の話を聞き取るという活動ができていた。ただ、粘り強く学習に取り組む姿勢にやや課題が見られる。3年生では、自分で考え、話し合いを通して自分の考えをさらに深める活動ができつつある。自分で計画を立てて学習しており、予習・復習もしっかりできている。しかし、家庭学習の時間が1時間程度の生徒の割合が高く、全体的に時間が充分ではない。家庭や地域から支えられ良好な環境のもと生活や学習に取り組んでいる。3年生では、地域の行事に参加する生徒が多い。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○漢字を読む、文章を読みとる問題は正答率が高かった。 ●領域別7項目中、「読むこと」以外の6項目で全国・市の正答率を下回っている。特に「漢字の書き」、「文章を書く」(作文)の力に課題がある。	□漢字テストの定期的実施(注意箇所を紹介する時間を取る。テスト返却後、間違い直し後の練習チェック)を行い基礎力定着を図る。 □文章に基づいて自分の考えをもち、書く活動を取り入れる。また、友達の書き方から学ぶ機会を設ける。
	2年	○全ての項目で全国・市を大きく上回っており、概ね良好である。 ○「文法・語句に関する事項」、「文章を書く」力が全国・市ともに大きく上回っている。 ●「情報の扱い方に関する事項」(説明的な文章の読解)が、他領域と比較するとやや低い。	□漢字テストの定期的実施(注意箇所を紹介する時間を取る。テスト返却後、間違い直し後の練習チェック)を行い基礎力定着を図る。 □文章の構成や展開について、関心をもちながら記入やまとめができるワークシートを提示し活用する。
	3年	○全国・県・市の平均正答率を大きく上回っており、概ね良好である。 ○「漢字の読み書き」、「文章を読みとって表現する」力がある。 ●全国・県の正答率を下回った2つは、いずれも「我が国の言語文化に関する事項」であった。	□新出漢字の指導に合わせ、行書に関する事項にも触れる。 □課題作文は観点を明確にした評価を付けて返却し、正しく表現する力をつける。 □各単元および新聞のコラムを利用し「批評する」視点で文章を読んだり表現したりする課題に取り組み、書く力をつける。
数学	1年	○どの領域も市の平均正答率を下回っているが、数と計算は比較的良い。 ●正答率が目標値に対し大きく下回る領域がたくさんあるので、全体的に復習が必要である。	□計算問題をするときに、分数や小数の計算は詳しく解答をする。 □平面図形を学習するときに、角の問題や合同について復習する。 □データの活用で、度数分布表やヒストグラムなどを読み取る練習を、繰り返し行う。
	2年	○全国・市の平均正答率を大きく上回っており、概ね良好である。 ●数の集合と四則計算の可能性の理解に課題がある。 ●比例の式を書くことに課題がある。 ●階級の度数の意味をきちんと理解することに課題がある。	□一次関数を学習するときに、比例と反比例のグラフと比較しながら繰り返し復習する。 □習熟度テストで度数が出てきたときに解説をしたり、箱ひげ図を学習するときに復習したりする。
	3年	○全国・県・市の平均正答率を大きく上回っており、概ね良好である。 ○資料の活用に関する問題の正答率が上がってきた。 ●一次関数の変化の割合の意味の理解に課題がある。 ●ヒストグラムや箱ひげ図など、データの活用の問題に課題がある。	□関数 $y=ax^2$ を学習するときに、変化の割合の意味を確認したり、一次関数、比例と反比例の復習をしたりする。 □習熟度テストで、データの活用が出てきたときに解説をしたり、復習したりする。
英語	2年	○全国・市の平均正答率を大きく上回っており、概ね良好である。 ○様々な英作文の問題で、正答率が高くなっており、書いて表現する力が伸びている。 ●「語形・語法の知識理解」は平均正答率を下回っており、基本的な文法事項の定着に課題がある。	□既習事項の復習を授業の中で効果的に行なうように工夫する。 □発展的な練習問題や、言語活動を授業に取り入れていく。
理科	3年	○ほぼ全国・県・市の平均正答率を大きく上回っており、概ね良好である。 ●「力の矢印」や「化学反応式」の表し方にやや課題があり、思考力を伸ばすことができた平面、知識・技能の定着が不十分となった。	□ドリルの学習など、基礎的・基本的内容がしっかりと身に付く工夫をする。 □深い学びの鍵となる「見方・考え方」(どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で考えていくのか)を明確にしながらか学習を進めていく。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1年生では、「教員の話をしっかり聴く、授業できちんとノートをとる」と回答している生徒の割合が高く、主体的に学習に取り組む基本的な姿勢は概ね身に付いている。 ○2年生では、「話し合いで自分の考えを積極的に話す、相手の話を聞き取っている」と回答した生徒は全国平均を上回っている。 ●2年生では、「分からないことがあれば先生に質問している」と回答している生徒の割合が全国に比べると低く、粘り強く学習に取り組む姿勢に課題が見られた。 ○3年生では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒の割合が、全国や県よりかなり多く、自分で考え、話し合いを通して自分の考えを更に深める活動ができつつある。	□授業スタンダードの「振り返り」を重視し、学習内容の定着を図るとともに次時の学習につながるように指導する。 □授業の中で、ペア学習、グループ学習等の対話的な活動を積極的に取り入れ、学びを深める授業づくりに取り組む。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「自分で計画を立てて勉強している」「家の人から言われなくても進んで勉強している」と回答している生徒の割合が高く、予習・復習がしっかりできている。 ●家庭学習の時間が1時間程度の生徒の割合が高く、全体的に時間が充分ではない。 ●「新聞を読んだり、様々なメディアから得た情報を適切に活用したりする」と回答している割合はやや低い。	□定期的に家庭学習の取組を振り返る機会を設け、家庭学習の時間の確保や授業と家庭学習を関連付ける予習・授業・復習のサイクルが定着するように指導していく。 □参考書、問題集、新聞、メディア(テレビ、ラジオ等)、図書館等を活用した多様な学習方法について指導していく。 □タブレットパソコンの有効的な活用を進める。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「家の人から認められている」「住んでいる地域が好きである」と回答している生徒の割合が高く、家庭や地域から支えられ良好な環境のもと生活や学習に取り組んでいる。 ○3年生では、地域の行事に参加する生徒が多く、また「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した生徒の割合が全国よりも高い。	□総合的な学習の時間、学校行事、ボランティア活動等を通して地域と積極的に関わるように指導し、ふるさとを愛する生徒の育成に努める。 □地域の担い手として、中学生にできる地域活動を積極的に展開していく。

令和4年度(2022)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立湖陵中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1年生は国語、数学ともに、正答率が全国平均及び市平均を上回っている。両教科ともかなり数値が高い。
○2年生は国語、数学ともに、全国平均とほぼ同程度の正答率である一方で、英語は全国平均を下回っている。
●3年生は各教科とも正答率が全国平均を下回っている。
●平日のメディア(TV、DVD、PC、スマホ、ゲーム等)使用時間2時間以上の割合が、2年生は市平均、3年生は全国平均を上回っており、メディアとの関わりについて課題がある。
●3年生は「携帯電話・スマートフォンなどの使い方について家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して肯定的に答えた生徒数が全国平均を下回っている。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○多くの問題で市、全国の平均正答率を上回っている。 ○特に文章を書くことが市、全国の平均正答率を大きく上回っている。 ●漢字を読むことは市、全国の平均正答率を下回っている。 ●文学的な文章の内容を読み取ることは、市、全国の平均正答率を下回っている。	□漢字では小テストを毎回行い、定着を図る。 □文学的な文章の単元では、生徒に読み取らせる活動を充実させる。
	2年	○漢字を書くことで市、全国の平均正答率を上回っている。 ○文章を書くことで、市、全国の平均正答率を上回っている。 ●多くの問題で、市、全国の平均正答率をやや下回っている。 ●記述の問題で、無解答率が市と比べて高い。	□文章を書くことは、平均正答率を上回っており、その強みを記述問題で活かせるよう、さまざまな条件で「書く」活動を行い、「書くこと」への抵抗感を減らすよう努める。意見交換の機会を増やし、様々な考え方を養う。
	3年	○表現技法や、語句の意味など、知識を問われる問題は市、全国の平均正答率とともに上回っている。 ●記述の問題の正答率が市、県平均よりも高い。 ●「よろこんで」という漢字を書く問題の正答率が全国を大きく下回っている。	□さまざまな条件で「書く」活動を行い、「書くこと」への抵抗感を減らすよう努める。意見交換の機会を増やし、様々な考え方を養う。 □漢字テストを授業で毎回行い、定着を図る。
数学	1年	○整式、小数、分数の加法と減法の計算は市、全国の平均正答率とともに上回っている。 ○「図形」の領域では、市、全国の平均正答率とともに上回っている。 ○与えられた表やグラフから、必要な情報を読み取る領域は市、全国の平均正答率とともに上回っている。	□表やグラフなどのデータを的確に読み取り、分析したり説明したりする活動を充実する。
	2年	○「数と式」の領域は市、全国の平均正答率とともに上回っている。 ○「データの活用」の領域の正答率は全国平均を上回っている。 ●「図形」の領域では、平面図形、空間図形とも正答率が全国平均より低く、図形の面積を求める問題で無解答が多く見られる。 ●説明する記述式の問題での無解答率が高い。	□授業での小テストや単元テストを活用し、基礎の定着を図る。 □図形の学習では、具体物を使って、視覚的、感覚的に学習できるようにする。 □自分の考えを表現できるように、話し合い、発表の活動を授業に取り入れ、理由をつけて説明できるようにする。
	3年	○予想の成り立ちを正しく考える領域では県、全国の平均正答率とともに上回っている。 ●与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る領域では、県、全国の平均正答率ともに下回っている。 ●記述式の証明問題は無解答が6割を占めている。	□基本的な計算問題の反復練習を着実に行う。 □事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動を充実する。
英語	2年	○英文を正しい語順で書くことは市、全国の平均正答率を上回っている。 ○単語など新たな知識を積極的に覚え、使おうとする回答率が市平均より高い。 ●語形・語法の理解で正答率が市、全国平均を下回っている。 ●テーマに沿って考え、記述・表現することに課題がある。聞き取り問題では要点を聞き取る問題が市、全国の平均正答率を大きく下回っている。	□基本的な語形・語法の反復練習を着実に行う。 □基本文型を定着した上で、発展的な内容(考えながら学習する課題)に取り組む活動を増やす。
理科	3年	○エネルギーを柱とする領域は、県平均正答率を上回っている。 ●生命を柱とする領域は、全国、県平均正答率を大きく下回っている。 ●思考・判断・表現を問う問題に対して、無解答の生徒が多い。	□実験結果をグラフや表を、タブレットを使って正確に整理ができるように行う。 □実験や観察を、日常生活との関わりについて考える場を増やす。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていたか」という質問に対して、「あてはまる」と回答した生徒の割合は1、2年生ともに市平均を上回っている。 ●3年生は「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいますか」や、「学級の生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という質問に対して肯定的に回答した生徒の割合が全国平均を下回っている。 ●「授業の最後に学習したことをふり返る活動をよく行っていたか」という質問に対して、「あてはまる」と回答した生徒の割合が市平均を下回っている。	□出雲市授業スタンダードの「めあて」と「ふりかえり」を全職員で研修・共通理解し、実践していく。 □授業中に主体的・対話的な活動を取り入れる。 □各教科の授業公開を積極的に行い、相互に意見交換し授業改善に努める。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○1、2年生とも、「学校の授業以外に、一日にどのくらい勉強するか」という質問に対して、1～2時間と答えた割合は全国平均を上回っている。 ○1、2年生とも、「宿題をきちんとしているか」という質問に対する回答で「はい」と答えた生徒の割合が多い。 ●3年生は学校の授業以外の学習時間(週末での家庭学習や学習塾など)が全国平均を下回っている。 ●「参考書や問題集を使って勉強している」、「学習塾に通っている」等、学校の学習に上乗せする家庭学習をしている生徒は1、2年生ともに全国平均を下回っている。	□全学年で実施している「自学ノート」で、反復やドリル学習だけでなく、予習、復習、発展学習につながる指導をする。 □各教科で主体的な学びに結びつく家庭学習にしていくなかに、内容を吟味・検討し、実践する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○1、2年生とも「自分が住んでいる地域が好きである」と回答する生徒の割合が全国平均を上回っている。 ○3学年とも「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に対して「参加している」と回答した生徒の割合が高い。 ●「新聞の記事を読んでいる」という質問に対して、「はい」と答えた生徒は、1、2年とも全国平均を下回っている。	□HP、ブログ、学校だより等で、学校の様子を家庭、地域に積極的に伝える。 □地域の活動やボランティア活動の紹介を行い、積極的な参加を推進する。 □学校での学習に地域の題材、人材、施設、また資料として新聞を積極的に活用する。

令和4年度(2022)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大社中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○全国平均と比較して、1年生はほぼ同程度、2年生の国語はやや上回る、数学は上回る結果であった。
○生活習慣に関わる問いに肯定的に答えた生徒の割合が高い。また、「将来の夢や希望をもっている」に肯定的に答えた生徒が、どの学年も7割を超えていた。
●記述式の問題の正答率が低く、また、無解答率が高かった。解答速度と解答意欲の両面に課題が認められる。
●授業で学んだことを、他の学習や社会生活に生かそうとする意識に課題がある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○概ね全国平均と同程度であった。 ●「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に課題が見られた。 ●記述式の問題の正答率が低く、無解答率が高かった。	□人の意見を聞いたり文章で読んだりしたときに、それをどう思うか、自分の考えを文章にする活動を適宜行い、適切に評価し、書くことへの意欲を高める。 □ペアやグループ等で発表し合う活動を設け、互いの発表について評価し合うなど、主体的に学習に取り組むような活動を行う。
	2年	○すべてのカテゴリーにおいて、全国平均をやや上回る結果であった。特に、「活用」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「知識・技能」は全国平均を上回った。 ●必要な情報を適切に取り出すこと、また、「話すこと・聞くこと」において互いの発言を結び付けて考えをまとめることに課題が見られた。 ●「文章を書く」問題において、無解答率が高かった。	□目的に応じて複数の情報を整理する学習活動を意識的にを行い、情報を適切に取り出す力を高める。 □字数制限や条件を設定し、時間制限を設けて書く活動を随時行う。
	3年	○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「思考・判断・表現」は全国平均と同程度であった。 ●書写の知識、表現技法、行為・心情を表す語彙、場面と場面を結び付けて内容を解釈することに課題が見られた。 ●「国語の勉強は大切だと思うか」「国語で学習したことは将来役に立つと思うか」に否定的に回答した生徒の割合が、全国や県平均に比べて高かった。	□書写の学習を、行書の書き方の確認をしながら進め、理解を確実にする。 □国語の学習事項と社会生活とのつながりを意識させるような指導を行い、語彙を豊かにすることや読解力を高めることへの意識を高める。
数学	1年	○「基礎・活用」「知識・技能」は、全国平均と同程度であった。 ●「データの活用」で、全国平均を下回った。特にグラフの読み取り問題は全国平均を大きく下回った。 ●資料から必要な情報を読み取って理由を記述する問題で正答率が低く、無解答率が高かった。	□グラフを読み取る力をつけるために、グラフと式と表を関連付けながら、数量の変化の様子を見つけたら、伝えあったりする学習を行う。 □説明し合う活動を設け、お互いの説明の仕方や内容を比較することで説明力を高める。また、定期テストに記述式の問題を出題し、記述問題に対応できるようにする。
	2年	○全ての領域・観点で全国平均と同程度かやや上回る結果であった。特に、「基礎」「数と式」「データの活用」「知識・技能」は大きく上回る結果であった。 ●「比例・反比例」「平面図形」において課題が見られた。 ●記述式の問題の正答率が低く、無解答率が高かった。	□関数、図形の学習を、基礎の確認をしながら進め、理解を確実にする。 □記述問題に対応できるように、普段の授業で記述させる場面を意識的に取り入れたり、定期テストに記述式の問題を出題したりする。
	3年	○「データの活用」は、全国平均と同程度であった。 ○選択式の問題では、県平均をやや上回り、全国平均と同程度であった。 ●「数と式」「関数」は、全国平均を大きく下回った。 ●短答式、記述式の正答率が低く、無解答率が高かった。	□数学的な用語の意味の理解や定着を図り、既習事項についても学び直しの機会を適宜行う。 □記述問題に対応できるように、普段の授業で記述させる場面を意識的に取り入れたり、定期テストに記述式の問題を出題したりする。
英語	2年	○be動詞や一般動詞を主語や時制に応じて正しく使うこと、語の並べ替えや与えられた情報をもとに英文を書くことについては全国平均を上回った。 ○宿題や授業への取組について肯定的に回答した生徒が多かった。 ●要点をつかむ力や語彙力について課題が見られる。 ●英語検定やALTとのコミュニケーションについて肯定的に回答した生徒の割合が低かった。	□ある程度まとまりのある文を聞いたり読んだりする場面を意識的に授業に取り入れ、キーワードを見つける力や要点をつかむ力を高める。 □与えられた課題に取り組むだけでなく、主体的に学ぶ姿勢を育成するために、授業の導入やまとめの場面で自らの課題意識を高める工夫をする。
理科	3年	○「地球」を柱とする領域では、県・全国平均を上回る結果であった。 ○「知識・技能」は、県・全国平均と同程度であった。 ●「粒子」を柱とする領域では、県・全国平均を大きく下回った。 ●短答式・記述式の正答率が低く、無解答率が高かった。	□身近な現象や事象と学習内容が結びつけられるような授業の導入にし、振り返りにおいても、その結びつきをより意識したものにしていく。 □説明し合う活動を多く取り入れ、理科の事象や現象を自分の言葉で説明できるよう工夫する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「将来の夢や希望を持っている」「自分の力をできるかぎり伸ばしたいと思う」に肯定的に答えた生徒の割合が高い。 ●「話し合いで、自分の考えを積極的に話している」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」に肯定的に答えた生徒の割合が低い。 ●「学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つか」(3年)に肯定的に答えた生徒の割合が、県・全国平均を大きく下回った。	□話し合い活動で積極的に自分の考えが出せるように、ペアや小集団での話し合い活動を増やす。また、役割や約束事を決めるなど、話し合いが充実するような工夫をする。 □学習事項が既習事項や今後の学習にどうつながるのか、また、社会生活にどうつながるのか(どう生かせるか)について、確認したり考えさせたりしながら学習を進める。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」「家の人から言われなくても、進んで勉強している」に肯定的に答えた生徒の割合が、全国平均に比べて高い。(1・2年) ●平日の家庭学習の時間が1時間より少ないと回答した生徒の割合が全国平均を上回った。「ほとんどしない」と回答した生徒も、2・3年で1割を超えた。	□基礎学力定着のために月1回行っている課題テストに対して、意欲的かつ計画的に取り組むように、1週間前にテスト範囲を提示するとともに、学習の取組を記録させるようにする。テスト後はプリントやノートを提出させて教師が点検し、生徒個々の取組状況を把握し、指導に生かす。また、保護者にも面談等の折に結果を伝える。さらに、生徒の意欲を高めるために、年間全回合格者を表彰する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」(1・2年)に肯定的に答えた生徒の割合が高い。 ●平日メディアに接している時間が2時間以上と答えた生徒の割合が高い。1・3年生は5割を超えた。また、「自分で時間を決めて、テレビを見ている」(1・2年)に肯定的に答えた生徒は5割程度であった。 ●「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」に否定的に答えた生徒が5割を超えている。	□一日のうちの、起床時間、就寝時間、家庭学習開始時刻を固定(同じ時刻)にする「三点固定」の大切さを確認し、実践させるような取組を行う。 □道徳「郷土愛」や総合的な学習の時間の「ふるさと探究学習」を1年時から系統的に行う。その中で、地域社会のためにどのような関わりができるかを考えさせる学習を行う。

令和4年度(2022)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立斐川東中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

(学力調査) ・国語では、漢字や文法などの国語の基本的な知識・技能が定着している様子が見られた。また、記述問題や作文問題にも抵抗なく解答している様子が見られ、書く力が育ってきていると感じた。ただ、条件の見落としや時間不足などにより誤答になってしまっているケースがあったので、今後、授業を通じて改善に取り組んでいく。数学では、1・2年生で、活用問題の正答率が高いが、基本的な計算問題に課題があるという傾向が見られた。3年生では逆に、計算問題を正確に解く力はついてきているが、活用問題の特に説明を求められるような問題に課題があることがわかった。2年生の英語では、長文読解が高い正答率であったが、文法や、場面に応じた文を作成する問題に課題があった。3年生の理科では、記述問題で高い正答率が出ていたが、分野によって知識・技能の定着に偏りが生じていることが課題であった。 (学習状況調査) ・友達と協働して学ぶ中で、自分とは違う考えに触れることの良さを感じている生徒が多く、授業の前よりも授業の後の方が自分の考えが深まったと感じている生徒の割合が高かった。また、自分で計画を立てて勉強を進めたり、わからない問題があってもあきらめずに挑戦したりする生徒の割合も高く、多くの生徒が主体的に学習に取り組もうとしている様子を感じられた。辞書や参考書の活用、一日当たりの読書の時間が全国平均に比べて低くなっているため、言葉の力を高めるためにも、改善に向けて取り組んでいく。
--

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○小学校で習った漢字が定着している。 ○記述問題の無解答率が低い。書くことに対する抵抗が少ないことが伺える。 ●話を聞き取り、それに対する適切な質問を考える問題で、必要な語句を使わずに解答する傾向が見られた。 ●説明的な文章の読解では、文章の構成や段落の役割を捉えることに課題がある。	□日頃から、話す時と聞く時を分け、人の話を聞く時には集中して内容を聞き取るように指導する。 □説明的な文章を学習する際、文章の構成や段落の役割を考えさせるような授業展開を工夫する。
	2年	○歴史的仮名遣いや単語など文法・語句に関する問題の正答率が高い。 ○文章の内容を読み取る問題の正答率が全体的に高い。 ●小学校で学習した漢字を正しく書くことに課題がある。 ●作文問題の無解答率が他の設問と比べて高い。また、指定された長さで書くことや条件をすべて満たして書くことができていない生徒が多い。時間が足りず、最後まで書ききることができなかった生徒が多いと考えられる。	□新出漢字の小テストを継続するとともに、小学校で学習した漢字についても、小テストの範囲に含めるなどして復習する機会を設ける。また、授業以外の場面でも、できるだけ漢字を使って表記するように指導する。 □授業でも、時間を決めて自分の考えを書く場面を設ける。また、テストでの時間配分のポイントを指導する。
	3年	○表現技法など、国語に関する知識が定着している。 ○記述問題の無解答率が低い。書くことに対する抵抗が少ないことが伺える。 ●文章の読解ができていない要因として、言葉の知識の不足が考えられる。 ●作文問題で、条件を見落としとして解答している生徒の割合が高い。	□読書をすることや、様々な人と会話することが言葉の知識を増やすことにつながる。家庭で話してみたいテーマを示したり、本や新聞記事を活用した授業を行ったりすることで、言葉に触れる機会を多くもてるようにする。 □作文問題の解答のしかたについて、ポイントを説明する。
数学	1年	○活用問題の正答率が高い。 ○図形の問題や、データを比較する問題に強い。 ●活用問題と比較すると計算問題等の基礎に課題がある。 ●比例・反比例に対しての数量の変化の読み取りに課題がある。	□小テストや振り返り問題を取り入れることで、基礎学力の向上を図る。 □比例・反比例の表、式、グラフの関係をプリントやICT機器を利用し、目で見て数量の変化を理解できるようにする。
	2年	○活用問題の正答率が高い。 ○図形の問題や、データを比較する問題に強い。 ●正の数、負の数、文字式等の基礎計算に課題がある。 ●等しい数量関係を見つけることに課題がある。	□小テストを取り入れることで、基礎学力の向上を図る。 □解答すべきことを的確に把握するために、問題文にある数量関係をまとめてみるように指導する。 □結論から必要な条件を考え、論理的に思考させる。
	3年	○基礎的な計算は身に付いてきた生徒が多い。 ○データの活用では、無解答も少なく、正答率も高かった。 ●活用問題、説明問題が全国平均、県平均を下回っている。 ●無解答が多い。特に説明を求められる問題に無解答の傾向が高い。	□活用問題や説明問題の書き方や押さえておかなければならないポイント(数量の関係や変化、グラフから読み取れる事象等)を丁寧に指導する。 □視点を明確にした話し合い活動を取り入れるなど、表現したり、伝え合ったりする場面を設定する。 □前年度から計算問題に力を入れてきた結果が表れてきている。活用問題も小テスト等で扱っていく。
英語	2年	○長文の読み取りについて正答率が高い。 ○3文以上で書く英作文では、自分の名前や学校生活で好きな事などを正しい英文で書くことができる。 ●語形・語法の知識・理解の正答率が低かった。 ●場面に応じて書く英作文では、その場面ではどのようなやりとりをすればよいかわからないと課題が見られた。	□語形・語法については、繰り返し問題に慣れることができるよう指導し、基本を確実に定着させていく。 □場面に応じた英作文では、普段の授業でもやりとりの場面を取り入れ、場面ごとにやりとりの英文を思い出すことができるよう練習を積み重ねていく。
理科	3年	○記述問題の正答率が高かった。 ○生物や地学分野の問題の正答率が高かった。 ●知識など基本の習得に課題のある分野がある。	□興味をもてるよう授業づくりを工夫したり、基礎基本が定着しているかどうか基本問題や小テストを活用して確認したりし、苦手意識を軽減できるようにする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○どの学年でも、わからない課題について、そのままにするのではなく、先生や友達などに聞いて解決しようとする生徒が多い。 ○1・2年生では、「授業中、自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたりして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合が高い。 ●3年生は、他者の意見をもとに自分の意見を深めることを苦手としている生徒の割合がやや高い。	□生徒の主体的な取り組みを促すために、振り返りを次の授業につなげながら、見直しをもって学習に取り組んでいけるようにする。 □友達の意見から自分とは違う考えに気づき、思考を広げたり深めたりすることの良さを感ずることができるよう、視点を明確にした話し合い活動を、更に計画的に実施していく。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○「自分で勉強の計画を立てて勉強している」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合が高い。 ●「わからない言葉があれば、辞書を引いている」という質問に対して肯定的に回答した生徒の割合が全国平均を下回っている。 ●「本(マンガや雑誌をふくまない)を読んでいる」という質問に対して肯定的に回答した生徒の割合が全国平均を下回っている。	□家庭学習の内容を生徒に具体的に指示する。 □国語科や英語科を中心に、授業で辞書を使って学習する時間を設けて指導する。 □朝読書に集中して取り組ませるとともに、学級担任や教科担任が本への興味が高まるような声掛けをする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○自分が住んでいる地域が好きであるという生徒の割合が大きい。 ○人の役にたたいと考えている生徒が多い。 ●自分が住んでいる地域が好きであるが、地域や社会をよくするために何をしたらよいかわかるところまではできていない生徒が多い。	□日々の生活の中での関わり(登下校時のあいさつ等)を大切に指導を継続的に行っていく。 □ふるさと学習(いにしえ体験学習等)を通じて、地域のよさについて実感し、人や社会に役立つためにできることについて考えさせる。

令和4年度(2022)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立斐川西中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【1年 出雲市学力・学習状況調査】 ○国語については、教科の正答率が全国平均正答率と同程度であった。 ○数学については、教科の正答率が全国平均正答率をやや上回った。 【2年 出雲市学力・学習状況調査】 ○数学については、教科の正答率が全国平均正答率と同程度であった。 ●英語については、教科の正答率が全国平均正答率を大きく下回った。国語については、教科の正答率が全国平均正答率を下回った。 【3年 全国学力・学習状況調査】 ○国語については、教科の正答率が全国平均正答率を上回った。 ○数学と理科については、教科の正答率が全国平均正答率と同程度であった。
--

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○漢字の読み書きの力が定着している。 ○説明的な文章の問題で、情報を整理する力が定着している。 ●文章を書く問題で、立場を明確にして根拠や自分の考えを書くことに課題がある。	□各単元で、自分の考えやその理由を書いたり話したりする活動に取り組ませる。 □2学期の「書くこと」に関する単元で、文章構成や根拠の述べ方について指導する。
	2年	○漢字の読み書きの力が定着している。 ○文学的な文章の問題において、文章を読んで理解したに基づいて自分の考えを確かめなめる力が定着している。 ●文章を書く問題で、構成を整えたり、自分の考えを明確にして書いたりすることに課題がある。	□「書くこと」の単元において、構成を整えて文章を書く活動に取り組ませる。 □各単元において、書く活動を中心に自分の考えを明確に表現させる学習活動に取り組ませる。
	3年	○「国語の勉強は好きですか」の問いに肯定的な回答をした生徒が多い。 ○自分の考えが分かりやすく伝わるために、表現を工夫したり、根拠を明確にしたりして書く力が定着しつつある。 ●事象や行為、心情を表す語句について理解する力に課題がある。	□各単元等で、条件を守って作文を書く活動を取り入れる。 □語句の意味を理解するために、辞書を適宜活用する。また、その際に、文脈に応じて使いこなせるように指導する。
数学	1年	○全ての領域、観点における正答率が、全国平均と比べ、同程度かやや上回っている。 ○既習事項を活用する力、論理的に考え、表現する力が身につけている。 ●「変化と関係」の正答率は、全国平均と同程度であるが、約6割と高いとは言えず、定着に課題がある。	□基礎的な力を確実に身につけるため、授業や家庭学習に反復練習を取り入れる。 □身の回りの関数関係や具体物を活用し、実感を伴って内容が理解できるようにする。
	2年	○全領域において全国平均を上回っている。 ○数と式の領域で、基本的な計算の力が定着している。 ●平面図形で回転移動を用いて、図形の関係を説明したり、度数折れ線からデータの傾向を読み取ったりし、自分の考えを記述する問題に課題がある。	□既習事項について、現在の学習内容と関連づけて復習させ、定着を図る。 □ペアやグループで自分の考えや解法の仕方を説明する活動を取り入れ、考えを伝える場や機会を増やす。
	3年	○データ活用の領域で学力が定着している。 ●数と式の領域で学力の定着に課題がある。 ●数学的な見方や考え方について、記述で答える問題に課題がある。	□授業の時間に、計算練習等を行い計算力の定着を図る。 □授業の時間に、自分の考えを筋道を立てて伝える活動を増やす。
英語	2年	●全ての領域で全国・市の平均正答率を下回っている。 ●「書くこと」の力に課題がある。また、自分の考えを英語で答える問題で無解答率が高い。 ●読み取りに課題がある。	□教科書の1文1文を読み取るのではなく、英文の概要や要点、話し手や書き手の意図を読み取るような指導を行う。 □ALTと対話する場面を想定し、授業に取り入れ、場面に応じた英語を使う機会を増やす。
理科	3年	○「粒子を柱とする領域」の正答率が全国平均正答率を上回っている。 ○予想をもとに観察や実験の計画を立て、結果をもとに考察・記述しようとする生徒が全国平均より多い。 ●「放電と静電気の違い」や「気圧の理解」に課題がある。 ●「条件を制御した実験方法の計画」と「根拠を示して記述する答え方」に課題がある。	□実験や観察の目的を明確にし、条件制御をしながら実験計画を立てる機会を増やす。 □実験や観察の結果を比較したり関連付けたりしながら考察し、根拠を示して記述する機会を増やす。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の設問に対し、1・2年生のほとんどが肯定的回答であり、3年生では肯定的回答が県や全国の平均を大きく上回った。 ●「前の学年では、授業中にICT機器をどの程度使用しましたか」の設問に「週に数回」と答えた生徒の割合が、2年生は市平均を大きく上回ったが、1年生は市平均を、3年生は全国平均を大きく下回った。	□授業のねらいや各教科等における「見方・考え方」を踏まえたためあてを提示し、学習の見通しがもてるようにする。 □授業で示した学習課題について、自分の考えをもった上で友達や先生の考えに触れるよう、ペア・グループ学習を工夫する。 □授業の終わりの「振り返り」に生徒が記述した内容を把握し、次の指導に生かす。 □タブレット端末等のICT機器を活用した授業づくりを進める。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の設問に対する肯定的回答が、3年生は全国平均を大きく上回った。 ○平日のメディア(テレビ、DVD、ゲーム、インターネット等)接触時間について、「2時間以上する」と答えた生徒の割合が、1年生は市平均を大きく下回った。 ●「前の学年で、学校の授業以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか(塾・家庭教師・インターネット学習時間も含む)」の設問に、普段(月から金)は「2時間以上」、休日は「3時間以上」と答えた生徒の割合が、3年生は全国平均を下回った。「前の学年で、学んだことを使って家庭学習をしていましたか」の設問に「あてはまる」と答えた生徒の割合が、2年生は市平均を大きく下回った。	□家庭学習の習慣化を図るため、定期テスト前の学習計画表の活用、小中連携した「メディアと上手に付き合うウィーク」の毎学期実施を継続する。また、「学習のしおり」をもとに、各教科担当で学習の仕方を指導し、家庭学習とつながる授業を設計する。 □キャリア教育の充実を図る。生徒が自分の成長を実感したり、将来に関する情報を集めたりするなど、将来への夢や目標がもてるような学習活動を行い、生徒が学習の必要性を実感し、意欲を高めるような指導を行う。 □タブレット端末を活用した家庭学習ができる環境を整え、実践する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」の設問に対し、1・2年生の肯定的回答が全国平均を大きく上回り、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の設問に「当てはまる」と答えた生徒が、3年生は全国平均を大きく上回った。 ○「家の手伝いをしている」の設問に対する肯定的回答が、1・2年生は全国平均を大きく上回り、「新聞を読んでいますか」の設問に対する肯定的回答が、3年生は全国平均を大きく上回った。 ●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の設問に対する肯定的回答が、全国平均をやや下回った。	□道徳科で、自分と家庭や地域・社会との関わりについて考えたり、友達の考えを聞いたりする場面を設定する。 □総合的な学習の時間等で、地域について学び見つめ直す学習を行う。 □コミュニティセンターと連携して、地域の行事やボランティア活動への参加を呼びかけ、部活動単位でも参加する機会をつくる。